

## 助言者講評

磯子高等学校 校長 久柁田 敬嗣

横浜清陵高等学校のPTAの皆さんお疲れ様でございました。ご紹介にあずかりました磯子高校校長の久柁田と申します。初めて聞く苗字だと驚かれた方もいらっしゃるかと思います。これを機会に知っていただければと思います。助言者講評ということで高いところから失礼します。

まず、7名の方々がチャイムの音とともに揃いの服装で登場し、ダンスでも始まるのかなという期待をしてしまいました。お揃いで着ている体操服の紹介から始まり、学校の様子が本当によくわかりました。

さて、在県外国人、あるいは外国につながるのがあるという言葉がでましたが、在県外国人というのは、神奈川県内にお住いの外国籍の方、外国につながるのがある方というのは、例えば日本国籍をもっている、おじいさんおばあさんが別の国籍だったり、片方の親が外国籍の方ということになります。

データ的なことを申し上げますと、平成30年1月1日現在の神奈川県内の外国人は19万8,504名と統計ではなっております。実に、46人に1人が外国人ということです。県内で昨年度生まれたお子さんは7万2千人ほどいたのですが、そのうち外国につながる子ども、両親のいずれかが外国人である子どもというのが3,673名いたということです。これは、19人に1人は外国につながる子どもさんだったということです。全国的には27人に1人、東京都内では15人に1人というところ。神奈川県においては非常に率の高い数字になっています。

こういったことを踏まえ学校として困るのは、言葉の問題、文化の違いというところです。学校として教員の立場として、頑張っているところではありますが、PTAでこういった問題に取り組んでいることに驚きました。例えば合格者説明会などで通訳をつけることは一般的にはなっており、多数の県立高校で実施しています。ある学校では6ヶ国語用意しているというところもあります。

在県外国人生徒に関するお話を初めて聞いた方もいらっしゃるかも知れませんが、神奈川県はかなり国際化が進んでいるということです。この神奈川の中で、これだけ取り組んでいただいているということは、全国的に見ても非常に進んだ取組だということです。最初は、在県外国人とは何かと疑問から始まったとおっしゃっていました。そういった疑問をそのままにせず、その疑問に取り組んでいったというところが、横浜清陵高等学校PTAの素晴らしいところだったと思います。その疑問に対し、学習会を開いたということは、次の取組にもつながることではないかと思います。

今回の発表を聞き、わたくし自身考えさせられたことですが、たとえ外国人の方であっても同じ立場の保護者であるということです。このことを理解しようというのは、仲間を大事にするという意識の表れではないかと思われ。よくグローバル社会だといわれますが、これこそグローバル社会に必要な資質ではないかと思えます。色々な工夫をされ、在県外国人、あるいは外国につながる生徒の親に対し居場所を作っているのではないかと思います。いろんな取組をされている中で文化祭での表示

板を色で分類されており、ユニバーサルデザインという言葉がわからなくても誰もが理解できるといった配慮をされていたことに、驚きました。最後の方に「これといった答えはまだで  
いてませんが…」とおっしゃっていましたが、  
答えを出すということよりも、答えを出そうと  
することが大事なのではないかと思います。そ  
のチャレンジが、次につながる、より良い取組  
につながるのだと考えます。グローバル社会  
とは関係ないところだとは思いますが、こうい  
った本気の取組が、子どもを本気にさせる、色々  
なことを変えていく力になると思っています。

この取組を、試行錯誤を重ねてどんどん広げ  
て取り組んでほしいと思っています。

とても素晴らしい発表をありがとうございました。